



古今  
 奇談  
 粟  
 聖  
 話  
 卷  
 下

~ 13  
 3138  
 5 正





門へ付  
3138  
巻 5

皿屋

古今奇談盤野話第五卷下

江口の下

婕妤が恨い更かり人を待をたるとる女れ身とをほくしな塔て心細  
き旅れ宿を白妙い小ちる宿に歸り返きんか下せだ酒と湯で待たへ  
屋をうぬり来りて其顔も樂ほど酒をも飲を枕しほく白妙奈ほて  
何火とやと問とも長き息をほきを諸うす只睡入より人外と白  
妙心やりせん其細神よん成にけて内寝を中夜いりりて今夜お田  
殿と何とや申ひもを問ふちる宿を擁てきて起言んとして言さる  
と幾度涙睨はくもひかめと妻を肉に飲て胸とさする白妙いやく  
おきふちる宿とまが膝に抱て言を軟めてそ袖に別て二とれ程の  
久きものあなれども千辛一が若をなるとらんいりり火とあももなる  
てとてひまんとんをほくちる宿の身の上は悲傷ありていとあらず

昭和九年  
九月十二日  
購求

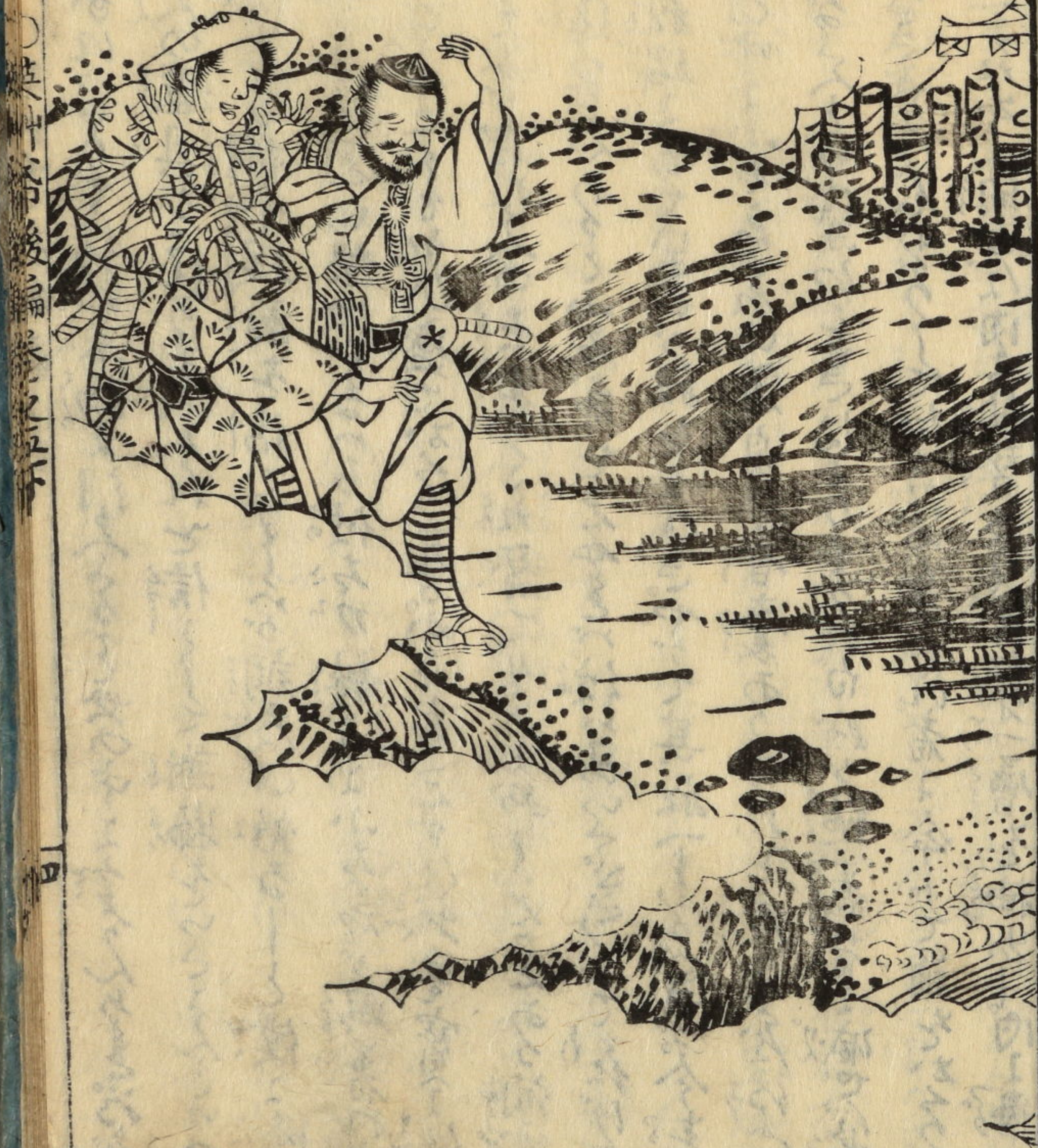












一ノ巻

一ノ巻



恩徳承りてりては終末初より久らると世の中より多うなりと為す  
 きて娘人の道具を送りて人それと信じて謝物をつとんとつて白  
 妙身造なる描金提厨を指してさうが調度け飾なりと僕も途て  
 障の籠りて送つて心柴のさるひら彼方カ舞踊小太鼓が晴着れ小袖  
 まで櫃のさるよとさひ盛ておろするふるふらるるに我を寶具終ま  
 るしやとさう身れ人の去書と丸替りり白妙とんそある調度なる  
 とさう遠いどやあつと小太鼓とんやまは彼いさうさうてさげふ足  
 や白妙船駕よとていふにが船をまひさぎやうて其船一もさうさう今ま  
 るる箱の中より小太鼓の護身の香囊ありこれと度一をさうさう間  
 將しくとさうとさういふにさうはよりさうに白妙が船一層若く減せぬ  
 愛敬さうさうにさうさうと何りたあらは者も命とて箱をおろす  
 白妙端とれ出り開れば内より抽替あり先第一層を抽出し内より

草紙二品を小太鼓に換けて是れ去ふしおよみの白妙が集るる  
 集るる八重垣の松抄まじりて記念よとさうと今又及んたりなり其介  
 なるいふと同一白妙かどてと太素の半江香亞刺取の雀腦香奇  
 南沈水香数種九華丹降雪丹紫雲及鬼の靈丹若く是れ海上の  
 仙業世の珍とさるる今さうと海の中よりとて投入するさう  
 小太鼓とさうさういふさうさういふとさうと目成放とさう白妙二層と門  
 かし紅と紫花の被を用けは金條環八寶器珊瑚の枝とさう柳汗乃  
 備校小塚さう珠琳混瑤火珠炭燄回りの自修珍方すの中と時をひら  
 せ地中海の金珠小合の中と遊てぬさう燕窩の安達具扶桑江櫻附  
 子難さう玉れ類其数多し白妙はて紙抄とさうさういふさういふ  
 海中と投入するさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
 さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう







盛粧躍海目無淚

去處俠魂伍綠珠

いやくべき。傍人皆身をくもてふる身と笑ひのちある。宗江と海城と  
言ゆいせん心終死。東に船と出し其西成去て。南海より行くこと  
は凡定す。大洲の沖に船よりとる。あま。美て海城宗江と捜ふ。徳  
倉に密使。國人と殺して船と陸と取のみ。今れ女が指打する  
艦頭。い衣のりたる。船と捕て正せ申。業江と下死一人も死  
ど。郷あて去る。ぬ。波ふる身。船中より。大に恥入る。心地より。く  
一。ぐきり。と悟りて。あふ。女が凍情。よそしき。く。は。縁会。り。た。も。波  
浮花の身。れ。人。我も。若。手。の。浮。氣。放。湯。波。は。狭。小。死。我  
ま。が。僕。又。人。家。ち。り。て。感。ふ。我。ま。り。う。ん。今。さ。う。適。世。を。と。せ。は。い。う  
人。は。笑。ま。も。ん。父。の。不。興。を。控。て。家。より。う。る。を。し。と。右。刀。刀。万。れ。調。子。を  
を。出。し。時。の。さ。ゆ。ふ。り。り。と。古。の。ふ。く。ん。ま。は。お。う。ず。も。ふ。ち。を。あ。が。る。ふ。河。と。う

縁。又。方。も。何。と。や。ん。は。冬。の。年。の。衰。を。ま。て。老。の。板。に。馳。騁。も。嗜。も。  
戀。の。心。は。孔子。倒。へ。男。う。あ。き。と。り。と。一旦。の。い。う。解。子。の。こ。う。上。國  
の人。よ。か。り。そ。俗。情。と。疏。く。ぬ。を。收。び。や。が。て。家。務。を。ゆ。づ。り。司。成。か。じ。む。  
板。岸。の。熱。官。成。儀。あ。ふ。る。身。が。其。後。信。り。か。れ。と。い。ふ。と。あ。い。心。我。も。  
國。の。海。の。期。き。こ。り。て。大。お。れ。岸。に。船。に。移。り。し。う。ん。さ。う。派。の。少。刀。と。あ  
落。し。ち。お。わ。り。は。も。家。の。侍。女。あ。の。げ。て。お。さ。せ。す。漢。人。と。や。ひ。揚。せ  
り。あ。ま。う。派。の。外。に。一。の。箱。を。取。り。け。是。俱。い。け。取。の。落。せ。お。わ。り。と  
あ。ひ。て。さ。げ。し。う。成。儀。い。う。ら。と。と。開。ら。き。こ。ん。は。皆。夜。光。珠。の。歌。う。て。  
一。角。魚。膽。鳳。塚。龍。珠。も。い。た。ま。守。不。得。無。價。珍。寶。わ。う。彼。漢。人。と。あ  
美。の。酒。と。酔。て。成。つ。う。が。あ。の。額。に。は。其。松。女。の。動。作。し。我。は。い。の。の。白。め。や  
として。お。ち。り。や。が。始。終。を。逐。さ。る。と。業。江。が。悪。心。を。こ。も。す。ひ。う。我。も。ち。り。あ。乃  
ん。と。ん。あ。ふ。す。今。休。お。り。わ。ら。ん。君。も。う。ん。が。志。情。成。さ。り。て。速。く。其。報。て

英州新編後編卷之五下



そる人てす成就やえり。げと謝せん。いま漁人よ托して百寶と  
致を。新美意と酬ゆと。のりて。の詞つる。守女の格侍たり。他事とる。醉言  
し。の成。白妙が。靈なり。て。宝貨を。け。水陸を。設け。信養  
して。幽魂を。慰し。る。病。た。れ。情。あ。死。使。あ。と。は。信  
を。教。え。る。の。た。人。身。より。あ。ま。世。の。風。月。と。あ。の。け。一。篇。を  
看。破。て。情。の。あ。不。真。の。と。あ。を。知。る。人。の。笑。い。を。養。ぬ。戒。も。あ。ら。じ

丸 宇佐養 宇津宮 御船を飾りて敵を討詰

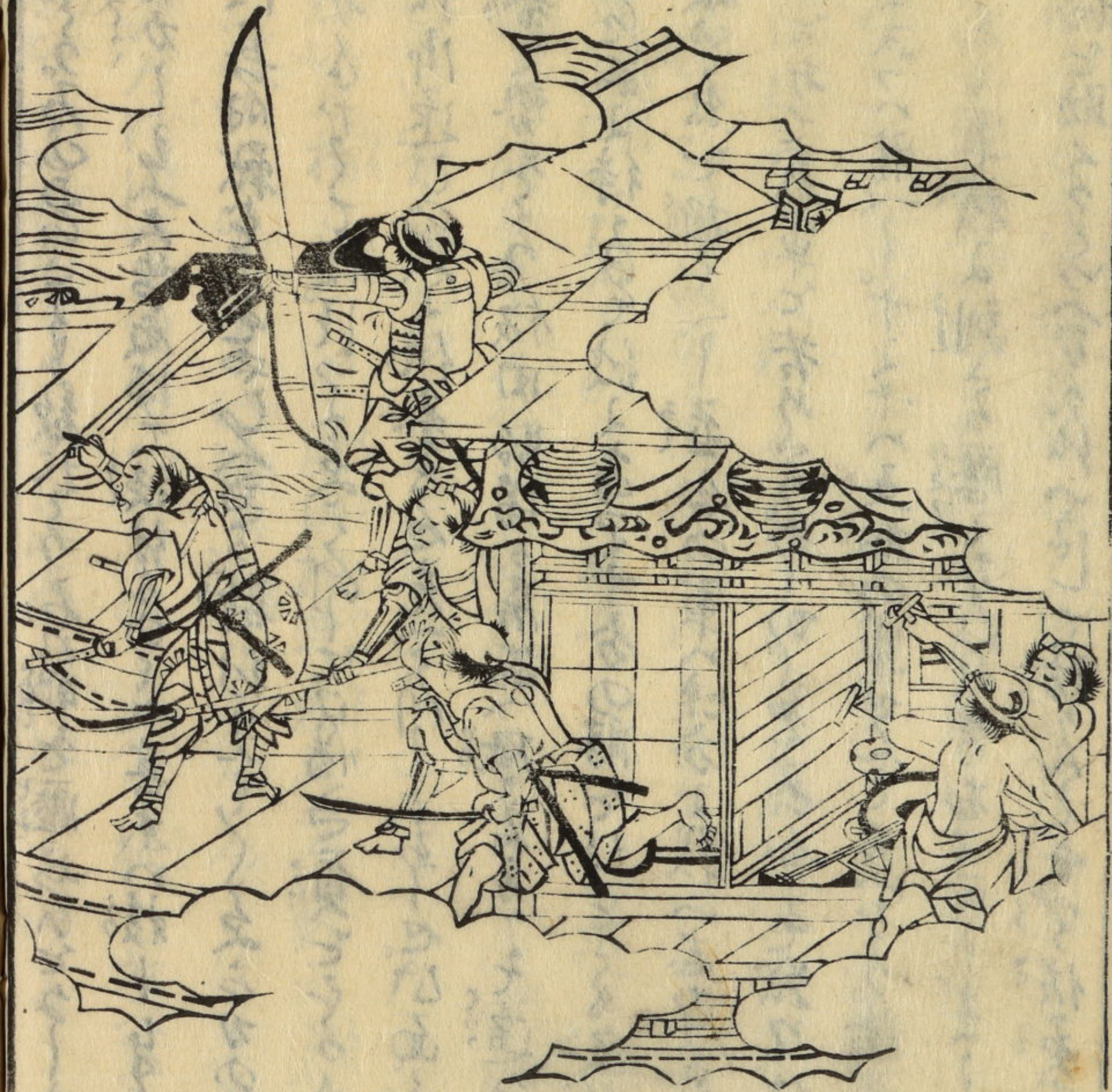
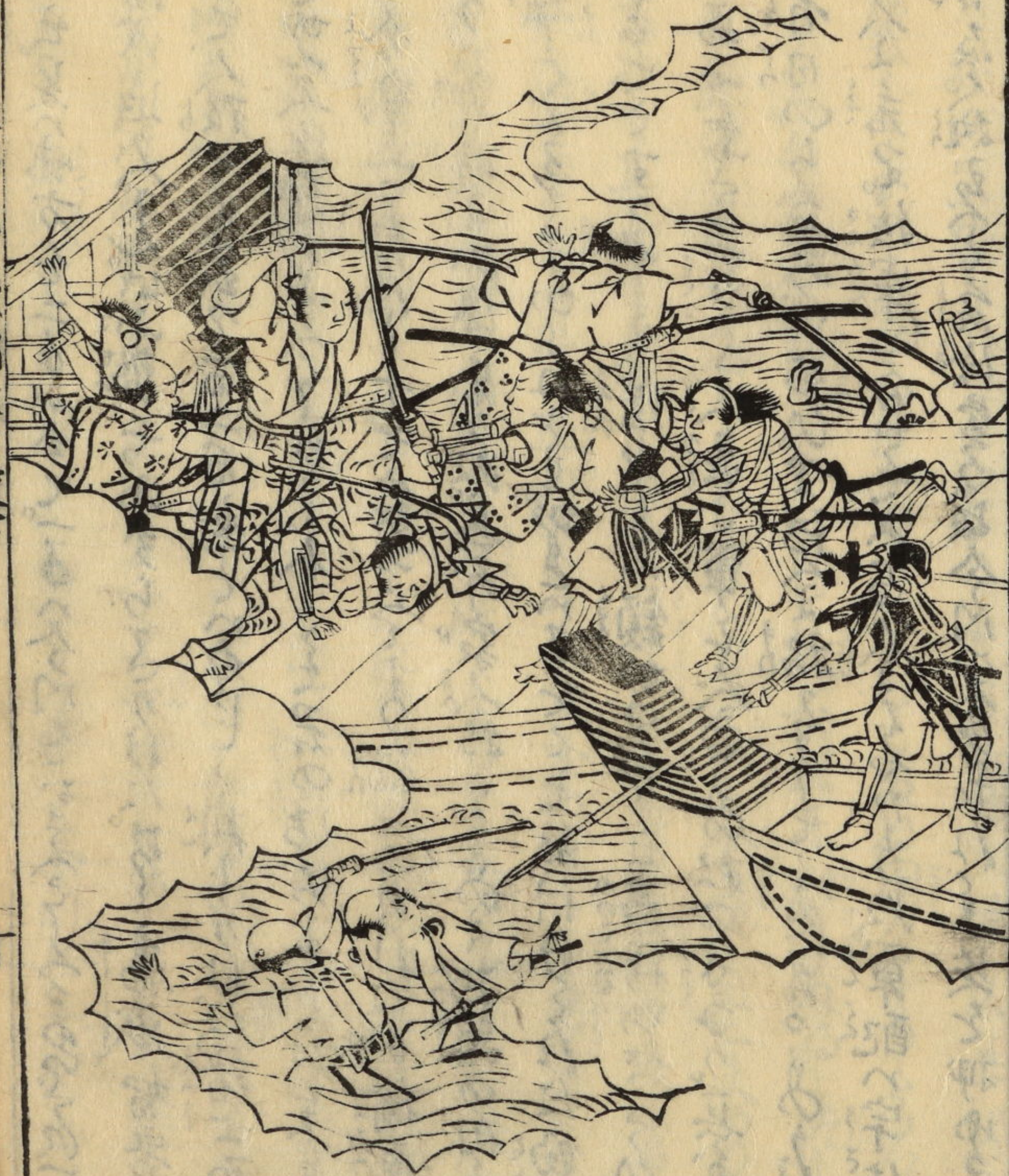
南朝中務親王の所子兵部卿尹良親王の遠州とて所誕生あり。後  
吉野へあり。むいて。元中三年大將軍を賜て。應永四年。新田原田桃井  
其介の宮方相謀して。上野國に。運へ。岡谷山川十一家のを供奉し。  
後河國富士が谷田豊次郎が。鑓。入。せ。れ。よ。て。宇津の親王と。呼。ぶ。  
け田費が女子の。新田義助の妻。室。たり。と。は。其。好。と。よ。る。人。富士十二

郷の諸士服屋殿の。高。好。と。な。し。て。味。方。と。あり。守。護。し。な。る。同。く。甲。州  
武田太馬助館。入。ら。せ。む。い。そ。れ。り。上。州。守。尾。の。城。小。将。と。も。其。間。合。戦  
度。に。い。か。ふ。同。二。十。年。孝。庵。は。伊。子。良。王。を。護。し。て。信。濃。國。宇  
野。六。郎。城。と。り。の。其。翌。年。冬。河。國。足。助。と。将。ら。せ。む。中。合。の  
大河原。と。飯。田。と。り。約。場。決。り。二。百。餘。騎。と。待。請。ふ。と。小。出。て。支。へ  
な。る。宮。方。命。と。と。て。我。い。飯。田。約。場。と。お。れ。り。味。方。小。出。田。羽。川。德  
谷。と。始。め。さ。ふ。人。討。死。し。て。士。卒。も。散。く。し。か。り。終。り。れ。宮。の。が。れ。り。  
と。ら。て。在。家。へ。と。せ。む。火。を。放。て。ほ。生。害。あり。其。後。良。王。も。寺。尾  
に。在。座。坐。ま。り。て。樵。井。が。落。合。の。城。と。將。ら。せ。む。其。折。る。尾。州。津。と。て  
橋。は。某。の。尹。良。王。の。姻。属。たり。け。方。へ。入。り。せ。む。と。こ。る。久。お。秋  
して。る。の。使。宣。を。と。り。み。甲。斐。信。濃。を。懸。と。ふ。と。な。ふ。比。計。け。飯。田  
が。一。旅。を。討。れ。る。約。場。と。り。供。養。の。軍。と。多。勢。と。と。り。て。後。身























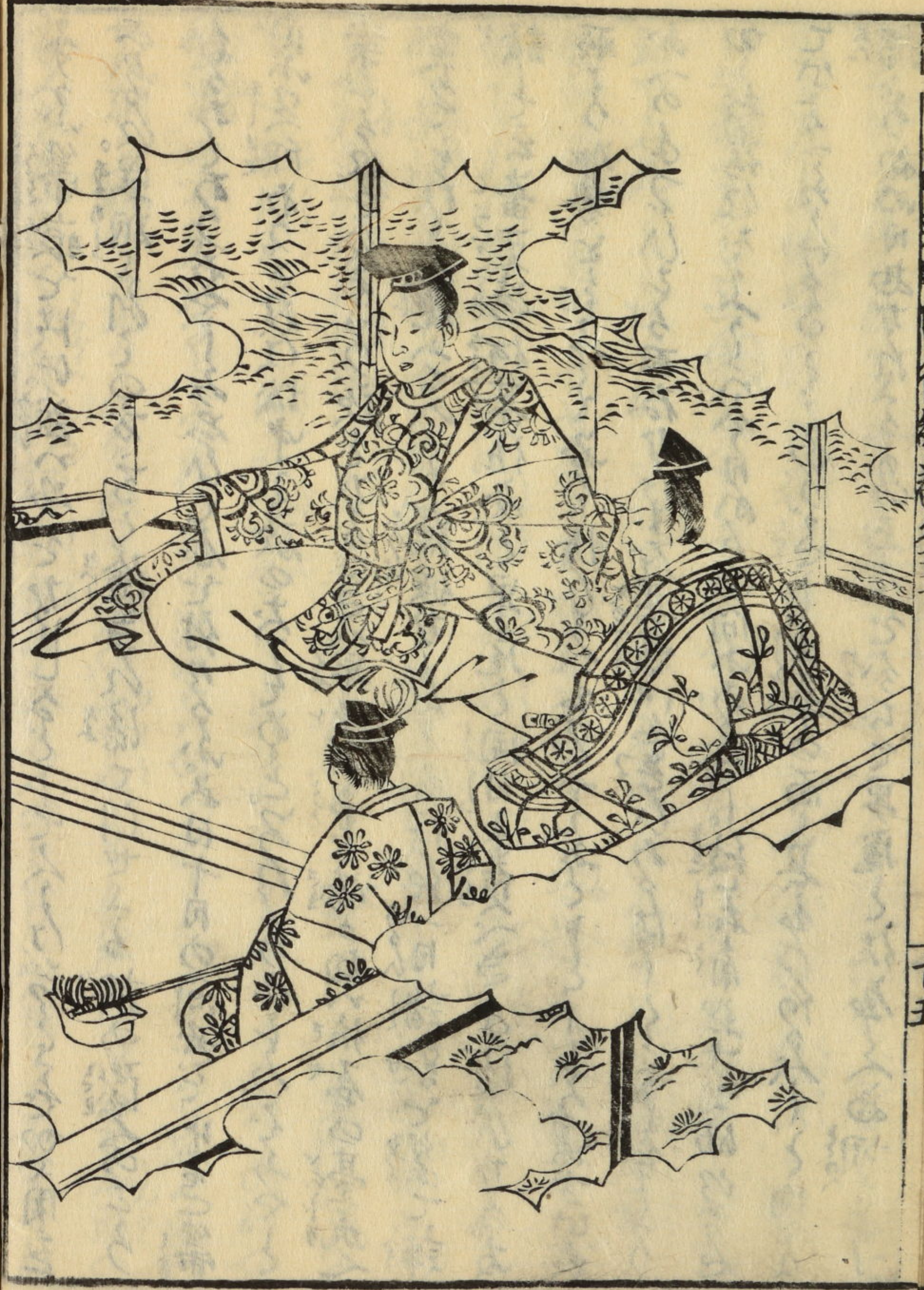
足備備を合せて押引難し。日ハ秀ら。約地ハ大過の小堂を捕ら  
て陣一五家をこぼら籌上懸ていんせず。足備備井と射陣とりて  
其夜いさめり。宇佐兵が勝とけり。一軍本陣の戦いなり。かく  
りかれば若くは後攻一隊とくはせてゆめく。押さ。誘馬八十騎と率て  
乃成地はけ。驥子にほきを率て敵の後をふさぐとどめり。約地  
陣に今川敗軍の告げ立て力と。敵つめり。約地とて。約地  
の士よりて。命の切争う。のあら。敵の平地に伏勢あり。約地は  
敵の横ぬり。力をたぐして斬服よ。は時生んと。ふや却て人々。急進は  
きごと。士卒をくげは。用心して約地。一本の下より。成まら。は宇佐兵  
誘馬を率て。今懸と寒して。なる。約地が一軍。免群免よ。是なり。と  
して。市。出れば。博。魚群。魚。異る。んと。洋。よ。れば。勢。身。の。後。志  
らぬ。若。もの。逃。是。と。さ。り。り。れば。官。軍。の。勇。士。ま。の。送。つ。て。給。ぞ。と。

六十騎乃健率らんと。馳出れば。約地。逃。耳。よ。ま。せ。て。登。り。せ。ん。乃。の。密。う。り  
と。率。と。と。ら。ま。ま。て。懸。て。後。軍。へ。極。勢。を。う。り。と。敵。を。率。り。熱。攻。と  
一。而。合。て。約。地。を。く。げ。は。た。か。れ。ば。と。れ。ま。た。く。退。入。て。は。約。地。の。敵。ハ。居。不。し  
ゆ。も。ら。と。ふ。う。う。り。り。ね。今。強。を。く。と。は。の。あら。と。ら。一。と。り。く。卷  
州。邊。へ。お。さ。り。り。る。足。備。今。と。と。勢。を。強。を。せ。り。と。つ。は。宇。佐。兵。ハ。我。も。天。乃  
候。ま。り。て。殊。方。換。や。だ。大。勝。と。ゆ。り。と。と。上。に。も。候。を。く。り。候。び。が。勢。が。候  
に。い。ひ。は。げ。み。際。の。軍。ハ。合。力。を。い。て。は。お。せ。り。と。詞。を。厚。く。と。は。は。こ  
謝。し。が。勢。の。武。士。ふ。と。人。つ。く。と。ま。り。ぬ。勝。州。の。勢。勢。近。國。と。う。り。い。て  
乃。の。乃。と。出。す。の。ち。く。氣。起。つ。さ。飯。く。津。早。ふ。と。あ。り。り。れば。大。は。後  
森。大。く。な。す。大。橋。の。人。も。其。武。士。を。感。下。ら。ま。り。り。日。本。より。近。國。味  
方。に。あ。る。の。多。く。宇。佐。兵。宇。津。宮。士。率。れ。調。練。れ。と。う。り。だ。考。は。り  
と。ま。り。遠。く。け。り。と。應。じ。り。り。と。出。働。く。と。毎。度。なる。約。地。一。敵。を















降つしるもの。那燈をたふれ船して大おふと告あうとん。宇佐兵衛宇津  
宮の勢と卒して二艘の使船と合國の笛被早拍子とてせせて燈籠  
あつねと目あそひ向ふ。一家の船燈籠とあやうせ早拍子合合せと  
集りんよう肌具堅固の町あて。其屋が船と志中しなこちて大お  
士卒からなく煮く海に切沈め。其時上艘同音し。臺尻うらこみさ  
いふとこやうなる。臺尻が強その兵船後よりとむし。卒船の大變  
あつててたぐひと招あひふいせてあつる。西国たうし。家のふらふ  
一變して三百餘人岸にあつて切てり。城こよせ立下とふせけども夜  
軍にたうと敵にさく。あつたひさびくともた。其國よたうと城に折て入  
る。城内あつたてこの郭に士卒を引かん。あつてささくと行つてや  
と進む。三百餘人あつたつら。及端を海に波の四にたふす。水と  
大橋中務兵卒を下かして懸ふ。しあけ御ら。すむい。波の四に自  
殺して失るるぞとげし。秋。後。綱。宇。佐。兵。衛。の。機。を。と。り。守。船。を。死。せ。て  
其屋尻が舟城に逼り。諸大お後法して一時。よ。案。あ。せ。早。く。大。地。の。仕。在  
と出し。捷を津海に秋。し。り。り。的。場。が。助。勢。を。か。き。場。を。し。り。り。て。逃。れ  
る。足。より。互。び。り。出。さ。だ。官。の。伊。左。衛。右。衛。月。一。奥。旺。し。あ。羽。の  
餘音けけそよし。音て。其屋尻うらこち。今。は。拍。子。拍。乃。を。と。り。り。  
も。久。し。き。世。乃。調。り。ん。

古今奇談 野話 第五之下卷 大屋



英州府後編卷之五下

古今奇談

# 英草紙前編

全部五冊  
先連る出来

明和三丙成年正月

通本町三丁目

江戸

西村源六

心斎橋筋順慶町

柏原清右衛門

大坂

日通り小久左衛門

山口屋又一郎

夕方寺



